2022年10月1日

日学連アゴラ（第6回）

「コロナ禍における大会運営について」

関西学生卓球連盟　理事長　太田　和都

日学連アゴラ「日学連理事の思いを表現する場」ということで、この度、第6回目を担当（寄稿）させていただきます。

スポーツには「する」「みる」「支える」といった視点があり、私たち学連幹事・　理事は「支える」立場になります。

2020年から新型コロナウイルス感染症が拡大し、各地で大会の中止・延期が相次ぐ中、関西学連では同年9月に関西学生秋季リーグ戦（1･2部）、関西学生選手権を開催しました。

しかしながら、開催までの道のりは険しいものでした。する側・みる側・支える側と視点や立場によって考え方が異なり、開催可否については連盟内で意見が衝突しました。

開催の決定は苦渋の決断となりましたが、決定後は学生幹事が主体となり、大会に向けての準備・運営に奔走してくれました。当時の活動が後輩の学生幹事に受け継がれ、現在まで続いているコロナ禍での大会運営の礎になっていると感じております。

私自身は、2020年より関西学連の理事長へ就任しました。当初はコロナに因んで「新型理事長」と揶揄されたこともございましたが、、、

コロナ禍による環境の変化を考えると、学連も新しく変わっていかなければなりません。その為には、学生の皆様の若い力が今まで以上に必要となります。

私も学連の卒業生として、理事として、微力ではございますが、学生卓球界を支えていければと思います。

まだしばらくは、感染防止対策の必要な状況が続きますが、この「日学連アゴラ」で各学連での取り組みや学生幹事・理事の思いを知っていただき、今後の大会ならびに連盟の活動にご理解とご協力をいただければ幸いです。